

山形済生病院 院外広報誌

JINN

01

山形済生病院
院外広報誌「じん」

愛と思いやりの医療を提供します



創刊号

健康百話「さいせい」健康コラム

股関節の話

診療看護師・専門看護師・認定看護師の紹介

JIN

創刊号

CONTENTS

院長メッセージ	1
健康百話「さいせい」 健康コラム #1	2
診療看護師・専門看護師・ 認定看護師の紹介	5
当院の理念	8



「JIN」というタイトルは当院の理念である「仁…愛と思いやりの医療」を表したものです。これから、山形済生病院の様々な情報や健康に役立つ話題をお届けして参りたいと思います。

院長メッセージ

創刊にあたって



院長
石井 政次

を守る、医療と福祉、会を挙げて切れ目のないサービスの提供を意味します。日本最大の社会福祉法人として、現在約63,000人の職員が40都道府県で活動を展開しています。

済生会は、明治天皇の済生勅語により、医療の受けられない生活困窮者を救済するため明治44（1911）年に設立されました。以来100年以上にわたり、創設の精神を引き継ぎ、保健・医療・福祉の増進に必要な諸事業を行ってきました。済生会とは、生活困窮者を済（すく）う、医療で地域の生（いのち）

を、中心に4つの特別養護老人ホーム、介護老人保健施設フローラさいせい、養護盲老人ホーム、はやぶさ保育園、小白川ケアセンター等の施設を有しています。その中でも当院は473床を有し、平成30年には南新棟に回復期病棟・地域包括ケア病棟・訪問看護ステーションが入りました。さらに介護老人保険施設フローラさいせいが併設され、急性期から在宅までの切れ目のない流れができました。

した。当院は、地域内における中核病院として、病態に応じたより質の高い「急性期医療」を提供しています。特に人工関節手術の多さは当院の特色になっています。また、NICU（新生児集中治療室）が併設された安全性の高い環境でのハイリスク分娩への対応や、下肢静脈瘤の手術を数多く実施するなど、各診療科で医療の質及び技術の向上に力を入れております。また、リハビリテーション部では充実のスタッフ体制で、患者さんの生活を取り戻すための支援を行っています。

指導士による運動療法を実践する「健康増進センターめぐみ」などを併設しております。また、済生会の活動の一環として生活困窮者支援事業（なでしこプラシ）にも力を入れております。生活困窮者、DV被害者、刑務所出身者など医療・福祉サービスにアクセスできない方々を対象に、巡回健診や健康相談等を積極的に行っております。院外広報誌「JIN」は、当院の様々な情報や、地域の皆様の健康づくりに役立つ情報をお届けするための広報誌です。今後も地域の皆様に向けて当院の情報を発信して参りたいと思います。これからも、私たちは済生会山形済生病院にかかって良かったと言われるような信頼される病院を目指し、更に頑張っていきます。

Message

健康百話

「さいせい」健康コラム

#1

股関節の話



山形済生病院
整形外科診療部長
佐々木 幹 先生

についてお話ししたいと思います。

股関節の病気(成人)

コロナ禍の折、世界中の話題はコロナ感染に関わるものばかりですが、他の病気がなくなったわけではなく、コロナウィルスの陰で苦しんでいる人もたくさんおられます。グラフは人工股関節全置換術の手術件数の推移を示したのですが、経年的に増加を示しており、10年前と比べると2倍近くになっています。これは日本人の高齢化が影響しているものと思われませんが、股関節疾患が一定数存在することを示すものです。

今回の健康コラムでは子どもからお年寄りまで幅広く関わる股関節の病気についてお話しします。股関節は体幹と下肢をつなぐ人体最大の関節で、人が歩行する時には股関節には体重のおよそ3倍の力が加わるとされます。股関節疾患は年代毎に好発する病気が異なっていますが、今回は成人の股関節疾患

成人の股関節疾患として、知っておいて頂きたい病気は3つあります。一つは変形性股関節症で、関節軟骨が磨り減ってなくなってしまう病気です。変形性股関節症はさまざまな股関節疾患の最終的な状態でもあり、骨折や脱臼などの外傷後にも生じることがあります。日本人では寛骨臼形成不全が変形性股関節症の原因として最も多く、8割を占めるとされています。寛骨臼形成不全は小児期の寛骨臼が浅い状態を指しますが、成長が終了した時点で浅い状態が改善していなければ将来変形性股関節症になる可能性があります。程度が高いと考えられています。程度が軽いと当初は症状がないか軽微であることも多いので、痛くなるま

で患者さん本人が気付いていない場合もあります。軟骨は経時的に摩耗し、回復することが期待できないため、変形性股関節症は基本的には「だんだんと悪くなる病気」です。寛骨臼形成不全が原因で、年齢が若く、軟骨が十分に残っている場合には寛骨臼回転骨切りなど自分の関節を温存する治療が適応となりますが、50歳以上で軟骨変性が進行していれば、人工股関節全置換術の適応となることが多いのが現状です。2つ目の疾患は大腿骨頭壊死症です。原因はわかっていませんが、大腿骨頭の一部が壊死してしまう病気です。壊死した骨は強度を失うために、体重の負荷に耐えられなくなると微小骨折を生じます。微小骨折に伴い骨頭の圧潰が進行すると、疼痛が生じ、最終的には変形性股関節症へ移行します。若年者で骨頭に健全な部分が残っている



股関節や膝の痛みがある場合には整形外科を受診しましょう

股関節疾患は患者さん本人が気づいてない場合もあります

本日お話しした股関節疾患は適切な治療を行わずに悪化した場合、最終的に変形性股関節症となり、耐えがたい痛みや歩行能力を低下させます。装具療法やリハビリなどの保存療法でも改善しない場合や見込めない場合、手術が必要になります。若年者では関節機能を改善させ、変形性股関節症の進行を予防するための骨切り術が第一選択になります。骨切り術では対応が難しい場合や年齢が50歳前後以降では人工股関節全置換術が選択されます。人工股関節全置換術は機能を失った股関節を人工関節に置き換えることで疼痛を改善し、関節機能を回

復させる手術で、製品と技術的な進歩を受けて成績がさらに向上し、年々手術件数は増えていきます。変形性股関節症が原因で歩くのが困難になった高齢者でも人工股関節全置換術を受けることで痛みなく歩けるようになることが期待できます。

当院は1980年の整形外科創設以来、股関節診療に注力してきました。股関節疾患は小児から成人まで幅広く、患者の年代毎に適切な治療が必要となりますが、当院では赤ちゃんからお年寄りまで全ての年代の患者様に合った治療を提供できる体制を整えております。股関節専門の常勤医が3名在籍しており、年間およそ400件の人工股関節全置換術に加え、技術的に難しいとされる再置換術古くなった人工関節を新しい人工関節に交換する手術も年間20件ほど行っております。小児や若年の患者様には患者様自身の関節を温存し、関節の適合性を改善させる骨

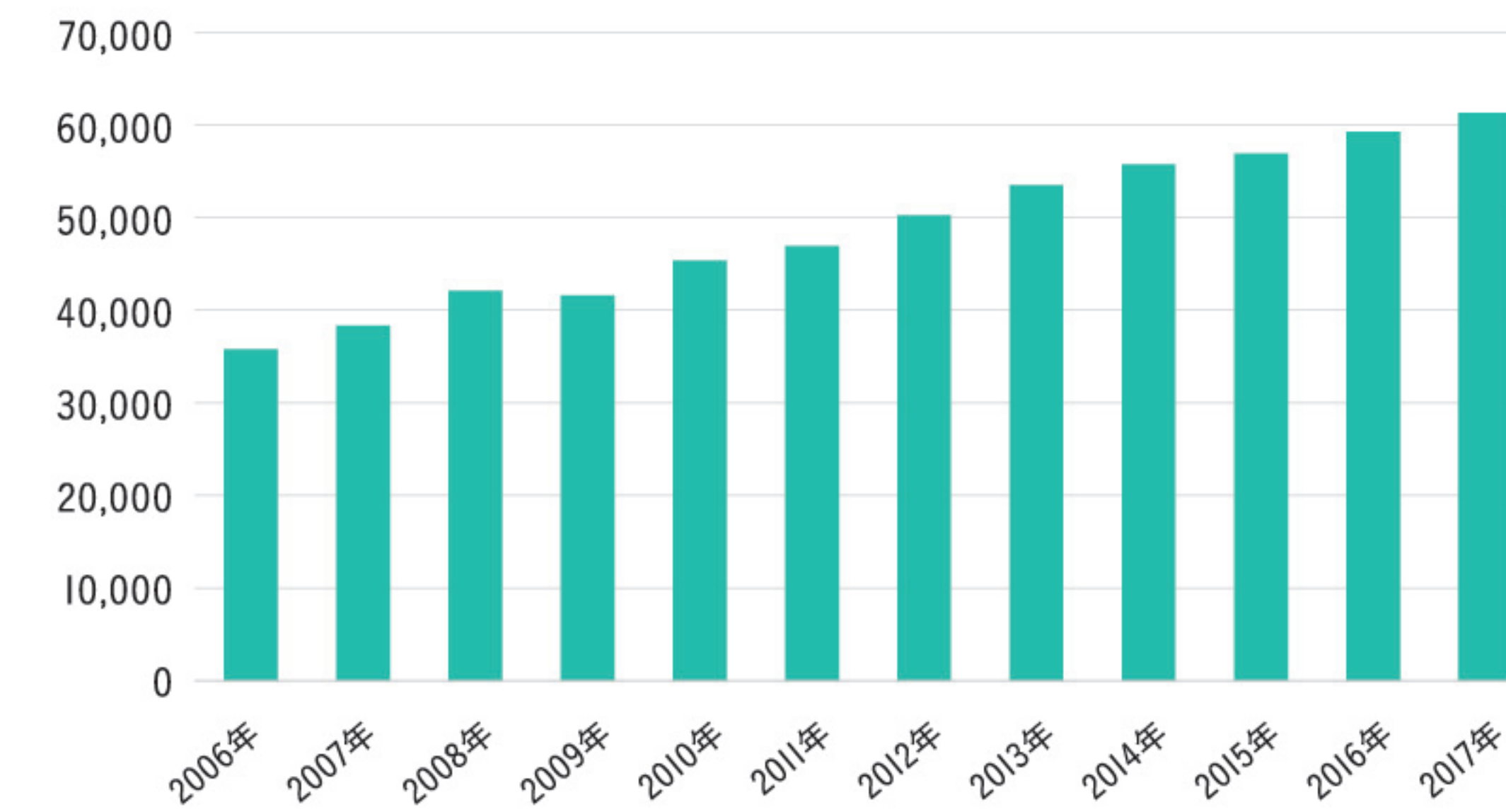
治療について

当院の股関節診療について

るため診断が難しく、痛みの局在も臀部、鼠径部、大腿部、膝周囲と広範囲にわたるため、腰や膝の疾患との鑑別を要し、しばしば難渋します。歩き方がおかしい、左右の足の長さが違う、股関節や膝が痛いなどの症状がある場合には一度整形外科を受診しましょう。

切り術を行っております。また、人工関節全置換術では正確なインプラントの設置が成績に大きく影響するとされますが、当院では高度な変形の患者様を対象に2018年からナビゲーションシステムを導入しています。ナビゲーションはCTで計画した詳細な術前計画をリアルタイムで正確に再現するこ

人工股関節の手術件数



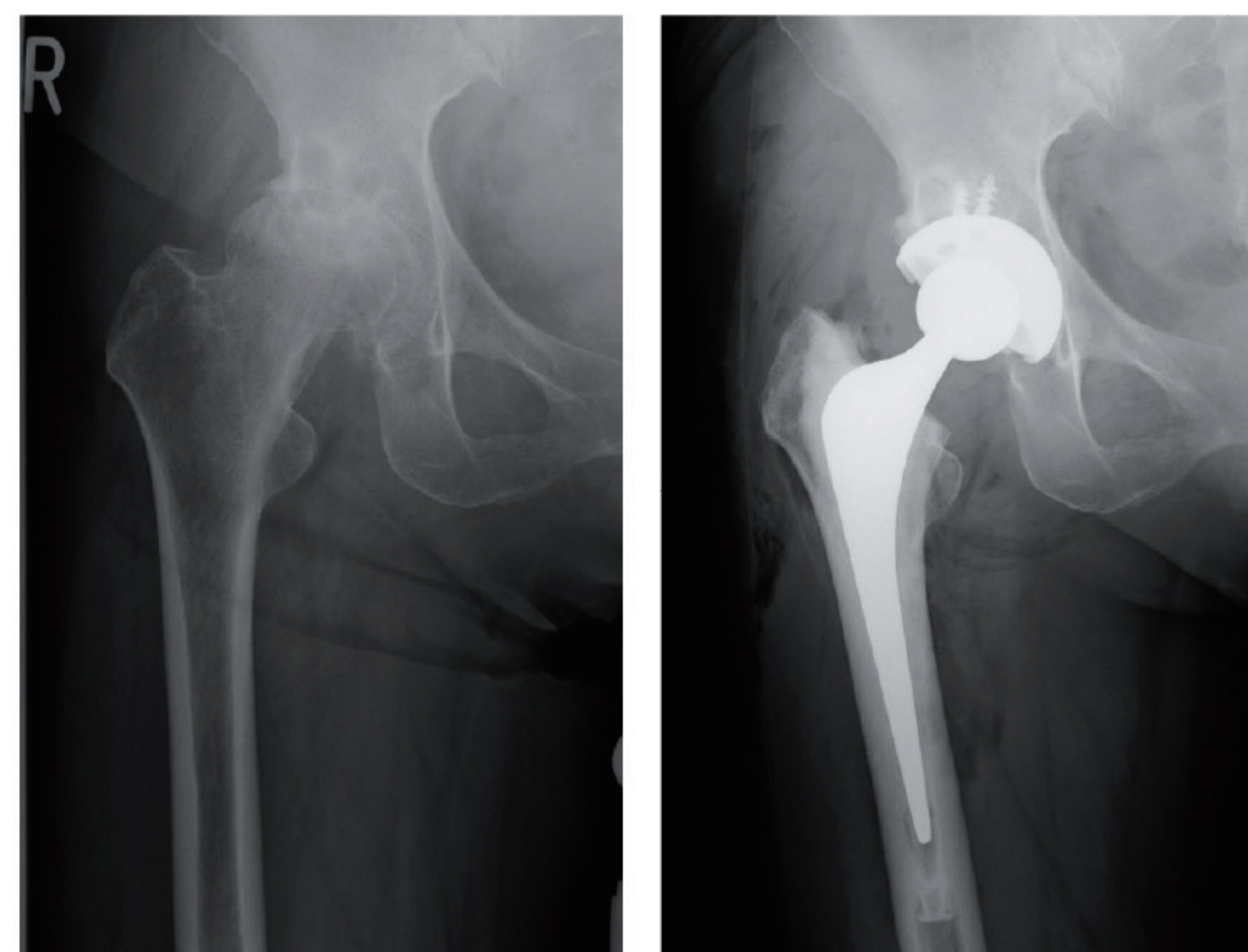
場合には健常部を体重のかかる位置に移動させる骨切り術が選択されますが、健常域が少ない場合にはやはり人工関節以外では救済できない場合もあります。ステロイド（副腎皮質ホルモン）という薬剤との関連が指摘されており、多量飲酒はリスク因子の一つとされていますので該当する方は知っておく必要があります。

3つ目の疾患は大腿寛骨臼イン

ピンジメント症候群（Femoroacetabular impingement: FAI）と呼ばれる疾患で、近年スポーツ愛好者の股関節痛の原因として注目されています。大腿骨の一部と寛骨臼が衝突することで関節唇や関節軟骨を傷めてしまう病気で、形態的に骨の張り出しが大きい人でアイスホッケーやサッカーの選手に多いといわれています。典型的には股関節を深く曲げる動作や内向きに捻る動作で痛みがでるため、スポーツ活動などに支障がでます。単純X線写真だけで診断が難しいこともあり、正しく診断がつくまでに時間がかかることもあるので、スポーツ愛好者で長引く股関節痛がある人は専門医に診て頂くといいでしょう。

股関節疾患はこどもから高齢者まで幅広く存在しますが、どの世代においても歩行困難につながる重要な病気ばかりです。膝や足首に比べると深部にあ

人工股関節全置換術



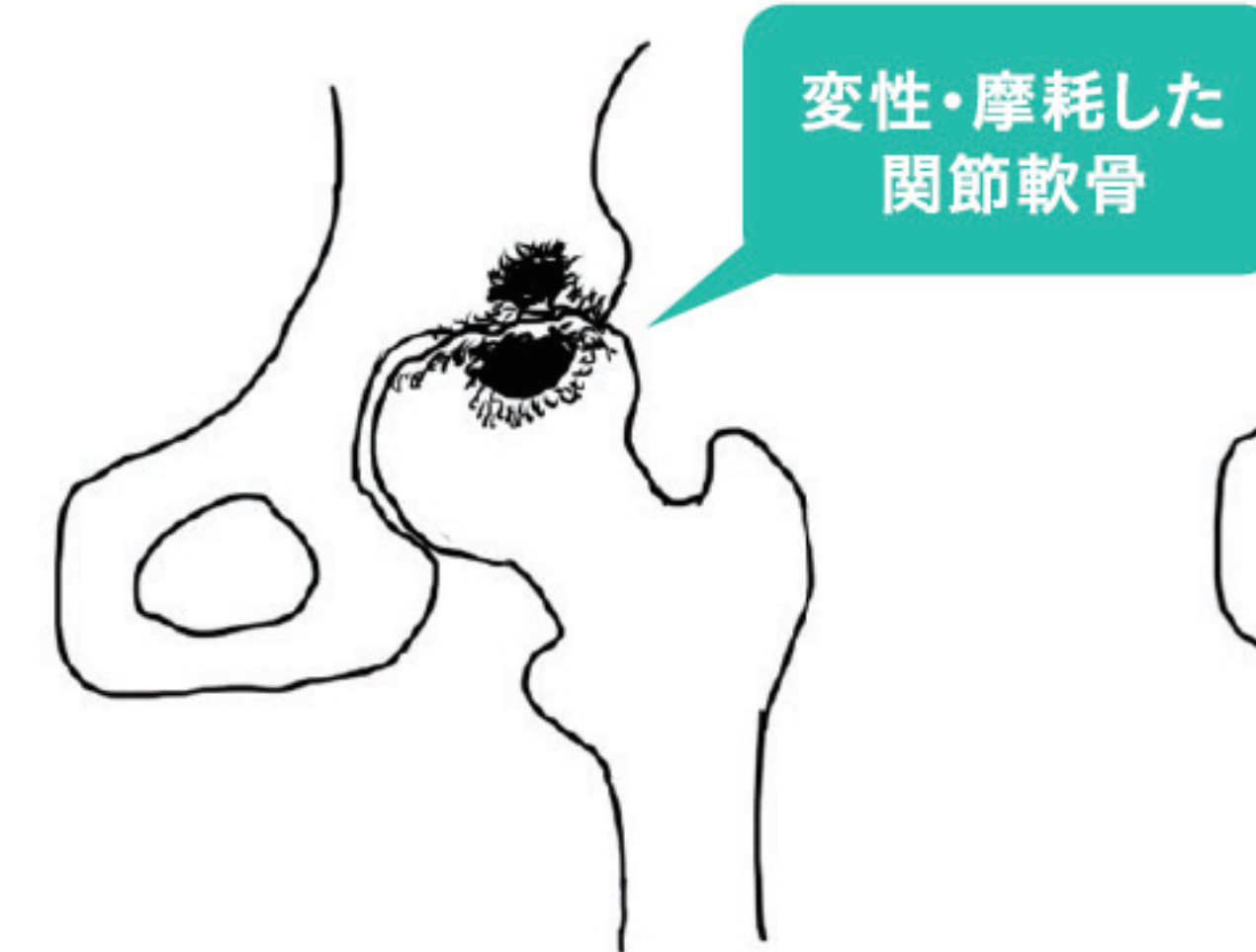
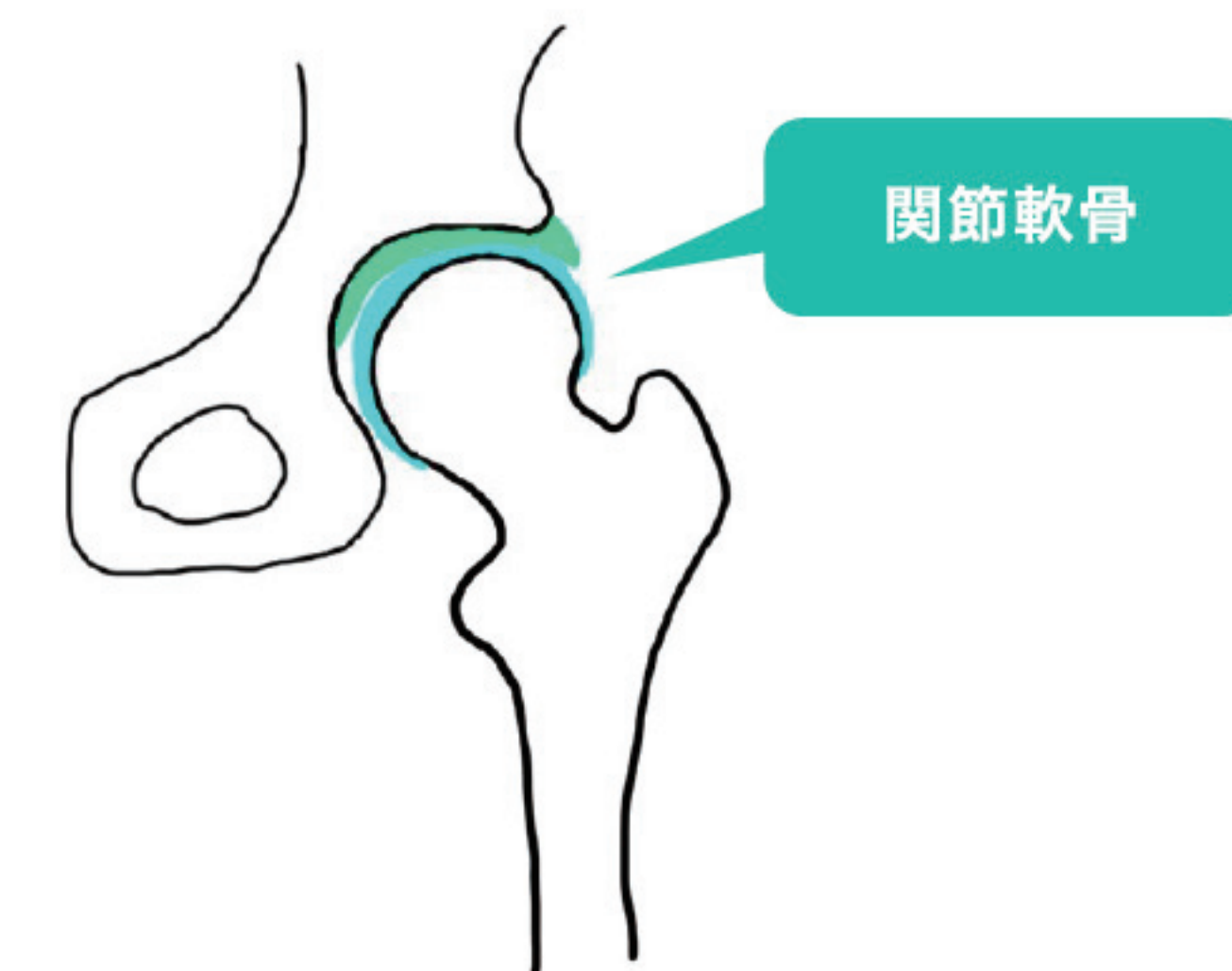
術前

術後

切り術を行っております。また、人工関節全置換術では正確なインプラントの設置が成績に大きく影響するとされますが、当院では高度な変形の患者様を対象に2018年からナビゲーションシステムを導入しています。ナビゲーションはCTで計画した詳細な術前計画をリアルタイムで正確に再現するこ

とで、手術を支援し、精度の高いインプラントの設置や骨切りを可能にします。当院では幅広い年代の股関節疾患について手術だけでなく手術以外についても診断から治療まで対応いたします。股関節の症状でお困りの方はどうぞかかりつけの先生とご相談の上、当院へお越し下さい。

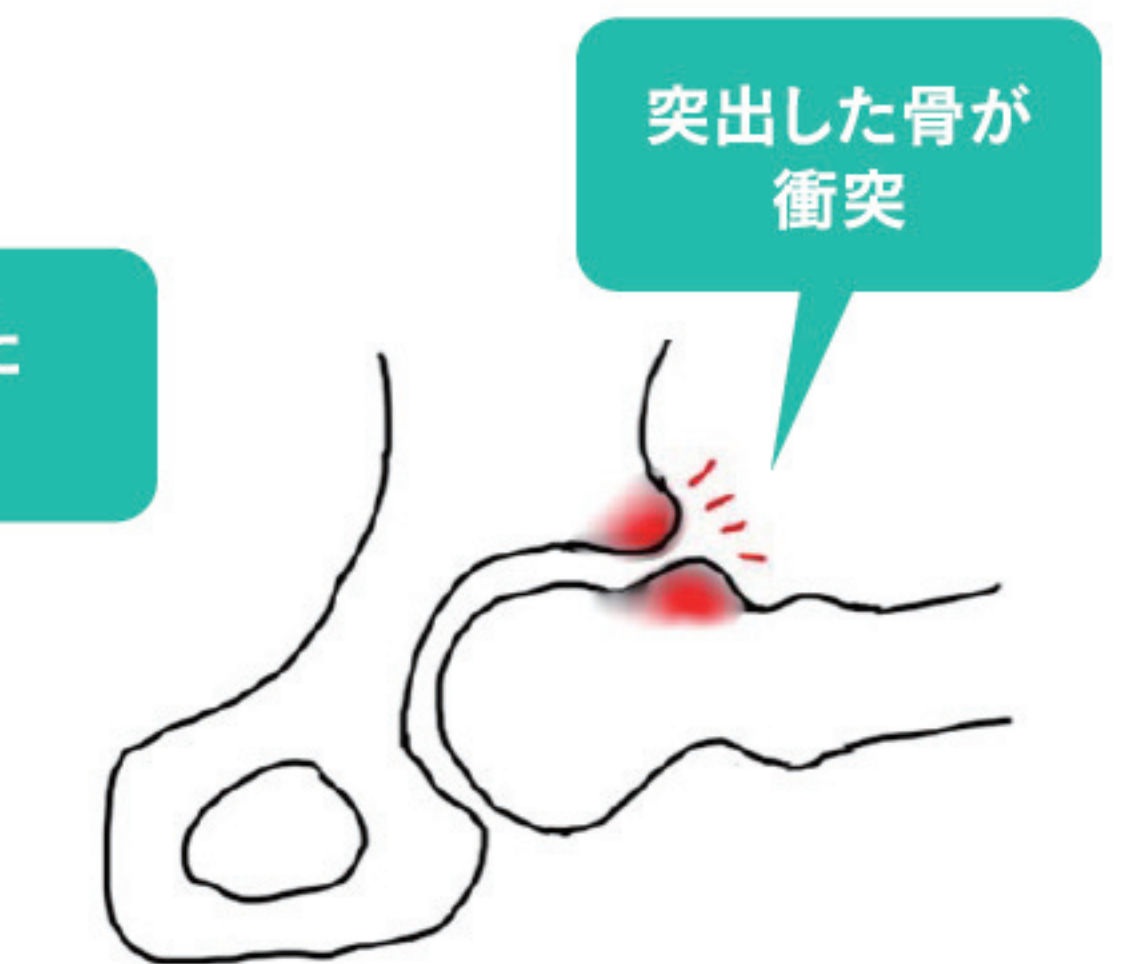
正常股関節



変形性股関節症



大腿骨頭壊死症



大腿寛骨臼インピンジメント (FAI)

医療を支える

診療看護師・専門看護師・認定看護師の紹介



(写真右 上段左から)

集中ケア認定看護師	水田麻美
緩和ケア認定看護師	新宮久子
認知症看護認定看護師	佐藤恵子
診療看護師	古瀬直子

(下段左から)

認知症看護認定看護師	奥山まり子
慢性心不全看護認定看護師	小野瑛子
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	小林楓



(写真左 上段左から)

不妊症看護認定看護師	穴戸由紀子
がん看護専門看護師	齋藤智子
皮膚・排泄ケア認定看護師	村山智美
皮膚・排泄ケア認定看護師	植松香

(下段左から)

新生児集中ケア認定看護師	片桐綾子
診療看護師・皮膚・排泄ケア認定看護師	黒木ひとみ
がん化学療法看護認定看護師	田代陽子

地域の医療を支える 看護師をご紹介

私たちは、山形済生病院の診療看護師・専門看護師・認定看護師です。

院内で「リソースナース」として活動しています。リソース resource とは、資源や資産という意味であり、病院や患者さんたちにとっての資源となりうる看護師であるよう、日々活動しています。

① がん相談室について

病気になるってしまった患者さんやその患者さんを日々支える家族、医療従事者、介護スタッフ等の相談にのるがん相談室「だ・ず〜(DA・ZU)」があります。日替わりでがんやストーマ(人工肛門)、床ずれ(褥瘡)、認知症、心不全などに関する相談を受けています。予約をとってじっくり相談していただいたり、お電話でお気軽にお

問い合わせいただいたりしています。当院の患者さん以外にも相談可能ですので、当院ホームページをどうぞご参照ください。

② DA・ZUの発行について

相談室の他に、私たちが発行している「DA・ZU〜」があります。それぞれの看護師が持ち回りで、お役に立ちそうなことを紙面に紹介しています。今までのバックナンバーも当院ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



リソースナース会
DA・ZU〜(だ・ず〜)

ホームページをご覧ください。がん相談室だ・ず〜(DA・ZU〜)や不定期発行の会報「だ・ず〜」を見ることができます。

詳しくはコチラ!



当院の理念

MISSION

「仁」... 愛と思いやりの医療を提供します

VALUE

安全で質の高い医療
 誠実で信頼される医療
 連携に基づくチーム医療
 地域包括ケアシステムの構築

VISION

急性期から在宅まで地域で安心して暮らせる医療に貢献します
 患者さんより信頼の得られる病院を目指します

受付時間・休診日

月～金	午前 8:45～11:00 午後 1:30～3:00	尚、午前8:00及び午後1:00より 1番窓口にて受付整理券を お渡し致します。	休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始・ 創立記念日(10月15日)
-----	-------------------------------	--	-----	-----------------------------------

紹介状をお持ちください

当院の診察を希望される方はかかりつけ医からの紹介状をご持参ください。
 紹介状をお持ちいただくことで診療費や待ち時間の軽減につながり、スムーズな診療が可能となります。また、医療機関を通して診療予約を取ることができますので、まずはかかりつけ医にご相談ください。

当院では、他の医療機関からの紹介状を持たず、直接来院された患者さんにおかれましては初診に関わる(初診時特別料金)3,300円(税込)を頂戴しております。

お薬手帳をご活用ください

患者さんが「どんなお薬をどこの医療機関から処方されているか」は、診察する上でとても大切なことです。

他の医療機関に通院されている方は、診察の際にお薬手帳やお薬の説明書をご準備ください。

